

初め有らざるなし 克^よく終わり有^{すくな}る 鮮し (詩経)

留学生別科長 横山 博信

朝日留学生別科の目的は、「朝日大学や他の日本の大学・大学院に入学を希望する外国人に対して、日本の大学教育を受けるために必要な日本語能力を身に付けさせること」である。

2001年4月に開設した本大学留学生別科は、2018年9月修了生に至る17年半の間に834名の修了者を送り出してきた。修了していった留学生たちは、それぞれに自分の未来に向かって旅立って行くことができただろうか。

初め有らざるなし 克^よく終わり有^{すくな}る 鮮し (詩経)

(何事も始めはともかくスタートするが、それを終りまで全うする人は少ない)

入学当初の留学生たちは、日本への留学が叶い、「N2(N3)合格」や「朝日大学進学」などの夢を膨らませ、希望に満ちたスタートを切る。留学生別科の授業教室も特別華やいだ空気が流れる。

しかし、しばらくすると、留学生の中には夢の実現への意欲もしぼみ、日本での生活費用の工面に明け暮れる姿も垣間見られるようになる。長期休業を挟んだ翌学期に入ると、留学生の日本語科目学修への意欲も大きな差が表れてしまう。入学当初の夢をあきらめてしまったかのようにも感じる留学生も出てくる。

私たちは、留学生たちの充実した本大学留学生別科の学生生活と、更には修了後の彼らの希望に満ちた旅立ちを願い日々の指導を積み重ねている。その指導の充実を期して、私たちは研究を通して自己研鑽するわけである。

忘れてならないことは、私たちは「目の前にいる留学生の教育者(留学生にとっては先生)であること」である。教育者の軸足は、学生の側になければならない。「分からない(できない)学生を分かる(できる)ようにするのが教育者の仕事」であることを肝に銘じなければならない。

研究・実践の内容はそれぞれであっても、日本語教育の研究者・実践者として、また教育者として、目の前にいる留学生一人ひとりに対し真摯な態度で指導にあたることを大切にしたいと思う。

この朝日大学留学生別科紀要も第16巻を数える。相互の研究・実践に学びながら更なる指導力・教育力を身に付けたいものである。